令和　　2　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3578100442		
法人名	社会福祉法人　阿武福祉会		
事業所名	グループホーム　であい		
所在地	山口県阿武郡阿武町大字木与10039番地の５		
自己評価作成日	令和2年　10月15日	評価結果市町受理日	令和３年５月６日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号　山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・一人ひとりの思いを大切にし、ケアにつなげている。
・家庭的で明るく、和気あいあいとした雰囲気の中で生活できている。
・日常生活では、調理の手伝い、盛り付け、掃除、洗濯物たたみ、花の水やりなどできる事をしてもらい、一人ひとりが役割を持ち、自立した生活が出来るように支援している。
・コロナ禍で買い物や人混みへの外出は避けているが、四季の花を見にドライブ、海辺へのピクニック、毎日周辺への散歩、苑内でも季節感のある行事など行い、はり合いを持て、気分転換が図れるように取り組んでいる。
・行きつけの美容院での整容、毎月の墓参り、自宅周辺の様子を見に行ったり、地域とのつながりを大切にしている。
・趣味や特技を活かして、手芸や裁縫、畑作りなど、日常生活の中で活動し、生きがいが感じられるように取り組んでいる。
・季節の花を飾ったり、利用者の手作りの装飾品で季節感を出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

三食とも事業所で食事づくりをされ、おやつづくりや季節の行事食（正月、ひな祭り、端午の節句、敬老祝賀会、クリスマス等）などを、利用者と職員が一緒に作っておられ、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。畑づくりや裁縫、料理の下ごしらえや盛り付け、手芸作品（パッチワーク、ポーチ、ストラップ、手縫い雑巾、布のカバン等）の展示販売など、本人の好きなことや得意なことを把握されて、活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。新聞を取りに隣接の法人の事務所へ行かれたり、近隣の海を見ながらの散歩、柏餅づくりのための葉を裏山で手摘み、人混みを避けてのピクニック、周辺のドライブや季節の花見、墓参り、近所のスーパーマーケットへ買い物、美容院の利用、家族の協力を得ての外出など、利用者の希望を聞きながら出かけられるように支援しておられます。コロナ禍のなか、事業所内でのビアホール、お月見会、芋煮会、お楽しみ会の抹茶など、利用者が気分転換や季節を感じられるような工夫をして支援しておられます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：24. 25. 26）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：19. 39）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38. 39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：31. 32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：29）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：10. 11. 20）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2. 21）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：5）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている（参考項目：12. 13）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に提示し、意識するようにしている。カンファレンスの際など理念に立ち返り、プランに活かしている。	地域密着型の意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。月1回の職員会議やカンファレンス時に話し合って確認し、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は地域の祭りなどに積極的に参加して利用者の制作したものを販売するなど交流を深めていた。コロナ禍で4月よりは祭りや運動会も中止となっている。地域交流の場のひとやすみにも毎月2・3回は出掛けていたが、感染症対策の為、1月よりは行く事が出来ていない。現在もひとやすみにはであいで作ったクッキーを毎週届けて皆さんに喜んで貰っている。美容院、墓参り、ドライブ、自宅訪問などコロナ禍においても出来る範囲で、地域を意識して外出を実施し、懐かしい場所へ出掛け、地域とのつながりが途切れないように心掛けている。	昨年の11月には、利用者と職員が一緒に地域の3地区（宇田、福賀、奈古）のふるさとまつりに参加して、地域の人と交流している。奈古地区の3・さんふるさと祭りでは、利用者がつくったポーチやストラップなどの手芸用品を販売している。地域交流の場「ひとやすみ」に、利用者と職員が一緒につくったクッキーを持って参加し、お茶を飲んで地域の人と交流している。奈古婦人会が来訪し、利用者と一緒におやつづくりの後、ラジオ体操をして楽しみ交流を深めている。事業所だよりを2か月に一回、地域の900世帯に配布している。地域から野菜や野菜の種の差し入れがある他、近くのスーパーマーケットや道の駅に買い物に出かけた時には、地域の人と気軽に挨拶を交わしたり声をかけるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回のであいだよりを発行し、地域に全配布し、認知症の方への理解と支援を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価についての勉強会も実施している。意義を理解し、改善に取り組んでいる。	主任（計画作成担当者）が評価の意義を説明し、全職員に評価のための書類を配布している。一人ひとりが自己評価にとりくみ、記入したものを主任がまとめている。年1回内部研修で「外部評価の意義・評価結果について」を学び、皆で話し合っている。職員は評価を日頃のケアの振り返りの機会と捉えている。前回の外部評価結果をうけて、内部研修で、評価について学び全職員で自己評価に取り組んでいる他、看護師を講師として応急手当の実技訓練を実施しているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際について報告や話し合いを行っているが、具体的な意見があまり出ておらず、直接サービスの向上には至っていない。コロナ禍において、運営推進会議も3月から実施が出来ていない。	会議は年6回の予定だったが、コロナ禍で開催は2回（11月、1月）となっている。生活習慣病について看護師から話をしたり、外部評価についての説明などを議題とし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が連携をとっている。	町の担当者とは、運営推進会議や電話で情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等で利用者の状況の相談や情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や建物に自由に出入りできる。玄関の施錠は一般家庭と同じように行うなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は、内部研修で虐待と身体拘束について学び、日常業務のなかで拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間玄関は施錠せず、外出したい利用者に気付いた時は、職員が一緒に出かけたり気分転換の工夫をしている。同一敷地内の法人施設の見守りもある。スピーチロックに気付いた時は、主任が注意している他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する共通認識は出来ており、虐待が行われたり、それを見逃したりすることはない。虐待防止法については勉強会をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業に該当する方が居られ、今後勉強会をして理解を深めていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制を定め、事業所内に掲示している。運営推進会議の際などに意見を求める機会を持っているが、具体的な意見は出ていない。	契約時に苦情の受付体制について家族に説明している。家族には面会時や運営推進会議時、受診つき添い時、月1回の近況報告のお便りなどで、意見や要望を聞いている。一人ひとりのケアの要望には適切に対応している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の際に自由に意見を聞く機会があるが、運営に関しての意見や提案は殆ど出る事はない。	月1回の職員会議や日常業務のなかで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。外出支援の際の行先の情報交換や、風呂場での利用者の安全のためのすべり止めマット設置など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に適切な評価をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修のほかに、法人と阿武町役場、社協などが合同で行う研修などに参加し、スキルアップにつなげている。資格取得に関しても、十分な支援を受けることができ、取得後は職場内で活かせる環境がある。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。「山口県サービス評価地域推進会議」「防犯の知識・技術について」の2回参加している。受講後は復命して職員間で共有している。内部研修は、月1回、法人の看護師や職員を講師として、火傷の対処法、低血糖の対処法、緊急時の対応（骨折、脳卒中発作、誤嚥）認知症高齢者とのコミュニケーション、脱水、心臓発作の対応、骨折時の対応などをテーマにして実施している。新人研修は、県の新人研修を受講後、主任や先輩職員から指導を受けて、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは交流する機会があり、職員や利用者の交流をはじめ、良い所は参考にするなど、サービスの向上につなげている。外部研修の際に同業者に話を聞く機会はあるが、ネットワーク作りや相互訪問はできていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安や困りごと、要望などは、普段の生活の様子や会話、表情などからくみ取るようにしている。安心して暮らせるように関係づくりにも努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時に情報交換をするなど、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス事業所からの情報聴取、入居時の本人、家族からの希望などもふまえ、最優先となる支援を見極めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でなるべくできる事はしてもらい、一緒に作業するなどし、見守りをしている。職員も一緒に生活を楽しむことを大切にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において外出や面会も制限されているが、電話や手紙などで、連携を取り合い、家族との絆を大切にしている。病院受診などもできる限り家族で対応してもらい共に支える関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、毎月の墓参り、毎月2、3回は「ひとやすみ」にも出かけ、なじみのある地域の方と顔を合わせていたが、感染症予防の為、1月よりは、ひとやすみには行けていない。自宅に時々荷物を取りに寄ったり、畑を見に行ったりしている。	家族の面会や親せきの人、友人、近所の知人の来訪がある他、電話や携帯電話の取次ぎ、手紙や年賀状での交流を支援している。地域の3地区の祭りや地域交流の場「ひとやすみ」、地区の新年会へ参加している他、馴染みの美容院の利用や墓参りに出かけている。家族の協力を得ての墓参りや法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え食事席を一緒にしたり、職員が会話の橋渡しになって、皆で楽しく過ごせるように支援している。利用者同士の助け合いの場面なども見られている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例なし。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや希望を把握する様にし、日常記録簿に記録している。困難な場合は本人の行動などから、できるだけ思いをくみ取るようにしている。	入居時にフェイスシートを活用して、生活歴、趣味、特技、暮らし方の希望などの把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の言動や表情を、日常記録簿に記入し、更に重要なことは申し送りノートに記録し、1か月分をケアプラン経過表にまとめて、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報提供して頂き、把握に努めるとともに、本人との会話の中で昔の事をかいそうしながら、どのような暮らしをしてきたか話すように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録簿、申し送りノート、ケアプラン経過表などで、毎日の状態を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活における課題解決や、より良い暮らしの実現に向けて職員間で話し合うとともに、多職種の意見も取り入れながら、介護計画を立てている。本人の意向の確認は難しい場合が多いが、現状に則した物を選択している。家族の希望は具体的には少ないが、取り入れるように努めている。	計画作成担当者を中心に、月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、医師や看護師の意見を参考にして日常記録簿とケアプラン経過表をもとに全職員で話し合って介護計画を作成している。1か月ごとにモニタリングを実施し、6か月ごとに計画の見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録簿、申し送りノート、ケアプラン経過表などで、毎日の状態を把握している。毎朝の申し送りの際に特に注意する点、変化、気づきなどを話し合い、常に変化に対応できるようにしている。状況により、介護計画の見直しにつなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズにできるだけ対応し、柔軟な支援ができるように努めている。サービスの多機能化はできていない。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの個別の地域資源の把握はできていない。本人の持っている力を出来る限り引き出せるように支援しながら、安全で豊かな暮らしができるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の回診がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族には面会時や電話で報告し、職員間では、申し送りノートに記録して共有している。緊急時や夜間には協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師に、利用者の状況を伝え把握してもらっている。定期的な訪問、要請時には迅速な対応を受けることができ、その後の対応についても、適切な指導を受けている。協力医療機関の医師にも情報伝達を行なってもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には付き添い、本人の状態を口頭や文書で詳しく説明している。早期退院にむけて、病院関係者との情報交換、家族との連携や情報交換を随時行っている。病院関係者との関係づくりはできていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からの本人、家族との話し合いはできていないが、重篤化した場合には家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、他施設への移設や看取りも含めて共有し支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合や終末期に事業所でできる対応を家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階で家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合って、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	対応した職員が事故やヒヤリハットの記録をし、全職員が周知するとともに、改善策について検討している。入居者の居場所確認も常に心掛けている。急変時や事故発生時の対応について、勉強会は実施しているものの、実際に場面に遭遇する機会も少なく、全員が実践力が身についているとはいえない。	事例が発生した場合、その場の職員がヒヤリハット報告書または事故報告書に、概要、対応、分析等を記録して職員間で回覧するとともに、日常記録簿に記入して申し送り時に報告している。月1回の職員会議で再検討し介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に努めている。月1回、法人の看護師や職員を講師として、内部研修で、緊急時の対応（火傷、低血糖、骨折、脳卒中発作、誤嚥、脱水、心臓発作、骨折）について学び、訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害時の訓練を実施している。併設の施設、町の協力による訓練も実施し災害発生時の迅速な対応ができるようにしている。3月からはコロナ禍で思うように訓練が出来ていない	年2回、法人の3施設合同で日中および夜間の火災を想定した通報避難誘導訓練を、利用者と町職員の参加を得て実施している。火災時の職員間の連絡網伝達訓練を年1回実施している。例年、地域消防団との合同訓練を実施しているなど、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、人格を尊重した言葉かけを心がけている。親しさから友達のように話しかけてしまうこともある為、行き過ぎた言動には注意を促したり、管理者からも注意喚起がある。	職員は、内部研修で認知症高齢者とのコミュニケーション、対応、について学び、全職員が理解して、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は主任が指導している他、職員間でも話し合っている。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務を徹底している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ希望を聞いたり、難しい時はわかりやすい選択肢を示したりして自己決定につなげている。それでも自己決定ができない人は職員側で本人の好み等を考慮しながら、決定している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の流れになりがちであるが、日々の関わりの中で、希望する過ごし方を把握し、一人ひとりのペースに合わせたその人らしい暮らしができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む服装を尊重しつつ、その季節や場に合った服装になるようにアドバイスしている。整容が自分で行えない人には随時支援をしている。行きつけの美容院の予約や送迎をしている。行事や外出時のおしゃれには気を配っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理、盛り付け、後かたずけなどを行っているが決まった人ばかりとなっている。畑で野菜を育て収穫したものを調理したり、家族から頂いた野菜等も調理し、感謝しながら皆でいただいている。季節の行事食や季節の食材を使った料理で、食事を楽しめるように支援している。誕生日会では誕生者の希望を聞き、メニューを決めている。	事業所の畑で収穫した野菜（大根、さつま芋、ちしゃ、ししとう、キュウリなど）や差し入れの野菜など旬のものを食材にして、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の好みを取り入れてその日の献立を立てている。利用者は、野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、テーブル拭き、下膳、食器洗い等、出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じものを食べている。おやつづくり（柏餅、ぜんざい、ホットケーキ、マーマレード団子、クッキー）や、季節の行事食（お正月の雑煮やおせち、ひな祭り会食、端午の節句の松花堂弁当等）、誕生日のお寿司や茶わん蒸し、敬老祝賀会の弁当、お月見団子、クリスマスのオードブルとケーキ、お彼岸のおはぎ、冬至のカボチャ料理、ソーメン流し、ビアホールでのから揚げや枝豆、栗ご飯、週に一度の刺身、地域のふるさと祭りでのうどんや炊き込みご飯、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物、食べ物の固さなど、個別に対応している。利用者の状態に合わせた量や食事形態にしている。摂取量の少ない方には高カロリー飲料などで対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けしできない方には介助している。自分で行っている人に対しては、どの程度できているか把握が難しく、本人任せとなっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別にトイレ誘導などを行っている。介助の方でも、ズボンの上げ下ろしや後始末など出来る所は自分でやってもらうようにしている。	排泄表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりにあった言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が不規則な方には朝食時に牛乳を飲んでもらったり、適度な散歩や運動などを心がけている。朝食後にはトイレに行ってもらう様に声掛けしたり、食事では野菜を多く取り入れたり、水分補給にも気を付けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴することは難しいが、なるべく週3回は入浴できるようにしている。本人の希望や体調に合わせ、入浴が楽しめるように支援している。	入浴は毎日、15時から17時30分の間可能で、会話を楽しんだりゆっくりと入浴できるように支援をしている。利用者の体調に応じて清拭、足浴、部分浴の支援をしている。柚子湯にして季節を感じたり、入浴剤を使って気分転換を図り入浴を楽しめるように工夫している。入浴したくない利用者には、無理強いせず時間をずらしたり言葉かけの工夫して個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に昼食後、休憩時間をとっている。自分で横になることができない人には希望を聞きながら対応している。日中の臥床時間が多くならないように留意し、適度な活動をすることで、夜間の安眠につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースを使用し、服薬の際には再度名前を確認することで、飲み忘れ、誤薬がないようにしている。服用している薬については一部は把握できているが、全員の把握はできていないのが現状。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味、得意な事を活かした活動が出来るように支援している。実施したこと自体はすぐに忘れてしまう事も多いが、その時は一生懸命取り組み気分転換が出来ている。	居室の片付け、シーツや枕カバーの交換、畑の草取り、水やり、野菜の収穫、CDカセットを聴く、掃除機をかける、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、テーブル拭き、下膳、食器洗い、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙、編み物、裁縫、アレンジタオル、ポケットティッシュ入れづくり、ウエス切り、新聞紙でごみ箱づくり、手芸作品の販売（パッチワーク、ポーチ、ストラップ、手縫い雑巾、布のカバン等）、カラオケ、ハモニカ、歌を歌う、コリス体操、七夕飾り、正月飾り、アイロンがけ、おやつ作り、節分の豆まき、敬老祝賀会、法人でのどんと焼きや花まつり、盆供養、日常活動の発表の場としての地域の祭りでの手芸作品の展示販売など、本人の得意なことや好きなことで張り合いのある日々が過ごせるように、活躍の場面を多くつくり、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ある程度外出予定を立てて行っているが、天候のや、本人の希望に合わせて臨機応変に外出の支援をしている。季節の花を見に行ったり、ドライブやピクニックなど行っている。希望があれば法事や地域の新年会などにも参加している。コロナ禍ではあるが、人混みを避けて、出来る範囲での外出を楽しんでもらっている。	毎日、新聞を取りに隣接する法人の事務所に行ったり、近隣の海を見ながらの散歩、周辺のドライブや季節の花見（梅、ツバキ、河津桜、桜、菜の花、菖蒲、ひまわり）、美萩公園へのピクニック、墓参り、近所のスーパーマーケットへ買い物、美容院の利用、家族の協力を得ての外出など、利用者の希望を聞きながら出かけられるように支援している。コロナ禍で人混みへの外出は避け、数人ずつでのドライブに出かけたり、柏餅づくりのための葉を取りに山に行く他、事業所内でビアホール、お月見会、芋煮会、お楽しみ会ので抹茶などで気分転換の工夫をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がお金の取り扱いができず、事務所や家族管理としている。又できる人には、自分の物を購入する際には、見守りや声掛けをしながら支払いをしてもらい、お金を使うことを忘れないようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には電話を掛ける手伝いをしている。手紙のやり取りができる方には支援もしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光に配慮したつくりで、自然の光の中で心地よく生活することができている。換気や掃除には配慮している。季節の物を飾ったり、花を生けるなどして、居心地の良い空間づくりをしている。利用者の手作りの壁面を飾りやりがいにもつなげている。	玄関の大きな壺や窓際に花壇で摘んだ季節の花が活けてある。廊下の壁に利用者が職員と一緒につくった季節の壁面飾り（フェルトのクリスマス飾りやツリーの貼り絵）を掲示している。リビングは天井が高く天窓からの陽ざしで明るい窓際に観葉植物を置いている。居間にソファを置いて畳コーナーにはコタツがあり利用者が思い思いにゆっくりとくつろぐことができる場所となっている。台所からは食事の支度の音や匂いがして生活を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳の間があり、くつろぎやすい空間を作っている。居間にはソファーを置き、テレビを見たり団らんの場となっていいる。ソファーは玄関ホール等にもあり、一人で過ごすこともできる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、人形や写真など思い出の品を持ちこんでもらい、今までの延長線上に現在の暮らしがあるように工夫している。	テレビ、タンス、仏壇、遺影、生花、本、小卓、CDデッキ、衣装ケース、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を示し、自分で確認できるようにしている。又、その都度わかりやすく場所を説明し、混乱を最小限に抑えるように努めている。		

2.　目 標 達 成 計 画

事業所名　グループホームであい

作成日：令和 3 年 5 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	応急手当や初期対応の定期的な訓練を行い、全職員が理解し、とっさの時に活用できるようにする。	・看護師から講義と実践についての指導を受ける ・職員会議の際、短時間でできる初期対応訓練を定期的に行う。 ・今までにあった事例なども参考にしながら、具体的な訓練もする	令和3年4月1日～令和4年3月31日
2					
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。